

尚 和 会 会 報

2008
平成20年5月1日

思い出とともに拓がる同窓の輪

我が校で学び育ち
開花した人々...

鴨居 洋子(高女1)
下着デザイナー・故人

島田 陽子(高女6)
作詞家

前田 憲男(高5)
ピアニスト・作編曲家

今枝 弘子(高5)
現校歌作曲者

永田 俊夫(高5)
現校歌作詞者

一色 貞輝(高6)
前豊中市長

宇多 喜代子(高6)
俳人・現代俳句協会会長

唐渡 吉則(高10)
スポーツコメンテーター ミスター・トラ

前田 信輔(高15)
ゴルフ日本トップアマ

田中 幸子(高17)
シャンソン歌手

奥村 豊(高17)
ギタリスト

阪上 順(高18)
かんべむさし・作家

奥田 敏輝(高19)
元阪神タイガース投手・故人

山城 彰(高19)
桂春之輔・落語家

山澤 健二(高29)
笑福亭仁勇・落語家

真田 豊美(高30)
マジシャン・指先の奇術師

日比 浩一(高32)
ヴァイオリニスト

河井 律子(高34)
河井リツ子・漫画家

幸田 さと子(高40)
ヴァイオリニスト

田中 直樹(高42)
コロコロ お笑いタレント・俳優

桐谷 健太(高50)
映画・テレビ俳優

尚和会総会のご案内

平成20年5月18日(日)

ホテルアイボリーにて (豊中駅東口すぐ ☎06-6849-1111)

- 総 会 オークッドホール 12:00~12:45
- アトラクション(落語二題) 13:00~13:45
- 懇親会 14:00~15:30

食事はシッティング・ブッフェスタイル

● ビンゴゲーム

アトラクション出演者プロフィール
・桂春之輔(本名 山城彰)
演目「死ぬなら今」
高校19期
1965(S40)年10月、三代目桂
春団治入門
松竹芸能所属
・笑福亭仁勇(本名 山澤健二)
演目「ちりとてちん」
高校29期
1977(S52)年4月、笑福亭仁鶴
入門
吉本興業所属



桂春之輔

笑福亭仁勇

- 会 費 4,000円 (2004年以降の卒業生2,000円)

Contents

尚和会会長・学校長ごあいさつ	(2)
学校だより	(3)
母校クラブだより	(4)
進路状況	(6)
70周年記念式典	(7)
尚和会通信・各期連絡先	(8)
尚和会決算・予算報告・役員紹介	(9)
創立70周年記念事業の寄贈・記念品一覧	(10)
斎藤忠芳氏叙勲	(10)
新聞投稿より	(10)
同期会報告	(11)
同期会開催予告、教職員人事異動	(13)
お便りから	(14)
物故者芳名簿	(16)
平成19年度会報代・協力金	(17)
総会・懇親会	(20)

発行——尚 和 会 発行・編集責任者 大畠 光昭

会長就任にあたって



尚和会会長

大島 光昭

(高十五期)

若葉萌ゆる好季節、尚和会会員の皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素は母校ならびに尚和会に暖かいご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

田中前会長のご勇退に伴い、この度の役員改選で選出され、第十一代尚和会会長に就任いたしました高十五期の大島光昭でございます。

顧みますと、平成八年副会長を拝命以来十二年、尚和会の活性化のため、皆様のご支援のもと微力を尽してまいりました。

副会長就任の年に財務を担当し、かねてから懸案の尚和会の財政建て直しについて、早急に抜本的改革に取り組む必要性から「財政見直し委員会」を設置し、財政維持の方策を協議検討し、会報の有料化が承認され、二年間のPR期間を経て、平成十一年度より実施され今日に至っております。

納入者数は平成十九年度で約二千四百八十余名で、会員住所判明者数からしましてもおよそ一〇・四％程度で、年毎に納入者数は増加で推移しています。

更なる尚和会の活動を幅広く理解していただき、若い年次会員の参加を促す努力を続けていくことが重要だと認識しております。

次の広報は平成十四年度より担当。会報誌の読み易さの面から、紙面サイ

ズと活字を大きくし、更にページ数、カラー写真を増やし、母校の現況、尚和会の活動状況、会員各位からの原稿も出来る限り掲載するよう努めてまいりました。

さて、昨年五月二十日、ヒルトン大阪で開催されました、母校創立七十年記念尚和会総会は、総勢三百六十余名の来賓、会員諸氏のご出席を賜り、余席無しの会食で盛大に終えることが出来ました。

次の八十周年、九十周年、そして百周年には、尚和会の若い期の会員バワーが最大限に発揮されるよう願って止みません。

今後は責任の加重されましたことを痛感し、非才に鞭打って、母校と尚和会の発展に精一杯尽す所存でございますので、今後一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。



桜塚高校校長

西郷 正人

七十二年目も大きく元気に翔たく！

今年の春の、正門の「枝垂れ桜」は「創立七十周年」に寄せて頂いた皆様方の熱い想いと手厚いご声援に添えてくれたかの様に、凛とした気品の中にも、確かなポリウム増と一段と冴える美しさを見せてくれていました。

周年事業を控えた昨年は、五月の尚和会様の「桜塚高校創立七十周年記

念総会」：五期生前田憲男様と四十期生幸田さんと子様との共演で始まり、十一月の「桜塚高校創立七十周年記念事業」では熱狂的な記念行事：先輩と現役生の繋がりを深める、元氣溢れるセッションを敢行することが出来まし

た。卒業生である皆様方やその時々集われた先輩諸氏が脈々と培われ、今も桜塚が誇りとする「粘り」の中での、明るく元氣な自主・独立」が体現されていたと感じていました。フォークソング研究会OB・OG・現役生の「翼をください！」、定時制生徒達の「ヨザクラ」、そして吹奏楽部演奏に合わせた熱唱された「校歌」など：いまだに胸内に響きわたっている想いです。

また二月には四十五年前に制作された、十五期生の卒業作品と言われる「若者像」の三十数年振りの校内設置を、高女一期生越水ユリ様と全日制定時制の両自治会生徒達同席の下に除幕式を持つという形で実現させて頂きました。先輩の熱き想いを具体の眼差しで日々後輩たちに注いで頂いている想いがしております。平成十七年度の準備委員会発足から平成二十年三月の最終実行委員会まで、関係者皆様方の想いを結集して頂きました。尚和会、PTA、振興会、桜塚会の役員委員の皆様には感謝の思いでいっぱいでございます。なかなかなく、この間、尚和会田中会長様には大きく温かい抱擁に満ちたお心で実行委員会をご指導くださり、桜塚に大きな大きな節目を確立させて頂きました。

桜塚の取組みのいずれの場におきましても、尚和会の皆様方には常に温かく見守って頂き、また熱い熱いご支援を頂戴しておりますことに、後輩た

ちは勿論のこと、我々教職員にとりましても大きな力付けとなっております。誠にありがとうございます。ここに心より御礼申し上げます。

頻繁に生起している時代でもありません。学校を取り巻く情報、地域や社会のニーズは正しく受けとめながらも、今桜塚の門をたく生徒たちには、「確かな学力」を確立するための「自学自習の学び」と「豊かな心」の「はぐくみ」を実現し、それらを基盤とした「生きる力」の育成を……。勉学・部活動等の両立探求の粘り。と。その過程での人間力の醸成。で桜塚らしく着実に深めさせ、それらを将来の「社会的な自立（自律・共生・貢献）」に繋いでいける「明るい力」の育成に努めたいと思います。



西郷学校長式辞

地域に愛され、支えられている桜塚高校を今後とも、より進化させ発展を続ける桜塚とすべく生徒たちはもとより私ども教職員も元気に励みたいと思います。今後ともいっそうのご指導ご支援をお願い申し上げます。

退任のご挨拶



前尚和会会長

田中 渡

(高十二期)

若葉が輝く爽やかな季節を迎え、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、会長在任中は役員理事の皆様はもとより、会員の皆様には多大なるご支援ご鞭撻を賜りましたことを心からお礼申し上げます。とりわけ昨年は母校桜塚高等学校創立七十周年を迎え、春の総会をヒルトンホテルにて多数の方に臨席いただき、盛大に開催できましたことを感謝いたします。ま



た、秋の学校主催の七十周年式典には尚和会、学校、PTA、定時制振興会、桜援会等のご協力のもと大阪府教育委員会、豊中市教育委員会、近隣の高等学校校長をはじめ関係機関各位のご臨席を賜り、厳かな盛大に挙行されました。尚和会会員の皆様にも多くのご参加をいただき有難うございました。

六年間の会長在任中には、五年毎の年会報の無料発送と同期会開催助成金を設け、会員相互の交流と親睦を図りました。さらに、尚和会活性化委員会を立ち上げるなど種々模索してまいりました。

先輩から受け継ぎました積立金および事業積立金の資産を増やすことあれ減らすことなく次の世代に引き渡すことができたのは皆様方のご協力の賜物でございます。

今年度の役員の皆様は、経験豊富なベテランに活力あるフレッシュな人が加わり大畠新会長のもと、尚和会を盛りたてていただけることを確信いたします。

今後の尚和会のますますの発展と皆様方のご多幸ご健勝を祈念申し上げます。お礼のご挨拶といたします。

再配置の定時制課程に着任して

定時制課程 准校長 関 省子

尚和会の会員の皆様、昨年四月に大阪府立桜塚高等学校の初代副校長を拝命しました。『本校五十年のあゆみ』を開きますと、昭和二十三年九月、定時制課程が発足したと記してあります。当時、昼の課程を教えておられた武井先生、武田先生、直江先生の三人

が定時制を兼務されました。「電灯の設置もなく物理教室だけが、電灯が点いたのでもそこを使つた」と書かれています。それから六十年、勤労する若者たちの学習の場であるだけでなく、様々な課題を持った人たちの学びの場として、二十九校の定時制課程の高校が再編整備を受けた中で、平成十七年に本校を含め十五校の定時制課程が再配置を受けました。その結果、普通科・単位制・二学期制となり三年。副校長の設置は、主に定時制課程のある高校や大規模の支援学校に対して行わ



関准校長より卒業証書授与



尚和会田中会長から花束贈呈

れ、各課程や部の生徒のために、一層きめ細かな教育ができるようにという目的があります。私は、平成十三年まで、本校全日制課程に勤務しており、再び副校長として勤務できることを懐かしく、また嬉しく思っております。

定時制の生徒の中には、昼間は仕事をしている人、障害がある人など様々な人がいます。再配置後の本校の特色は、デリバリー給食を実施し、希望者は夕食を食べて授業を受けられるということ。基礎・基本を学びながらも、二年次から類型を選択し、三年次から自由選択授業で、個々の生徒のニーズに合うような科目を選んで学習できることです。午後五時からのゼロ限授業、土曜開放講座を利用して単位の取得も可能です。クラブ活動も活発で、毎年どこかのクラブが近畿大会や全国大会に出場し、賞状やカップをもたらしています。年齢の違う生徒同士がお互いに学び合っています。働きながら学ぶ生徒は、仕事を持たない生徒に、よい刺激を与えています。障害のある生徒と共に学ぶことで、思いやり・人間としての繋がりが、温かい心の交流も生まれています。生徒たちが、作詞・作曲した歌「ヨザクラ（夜桜）」



よく頑張りました

には、定時制の生徒たちの思いがこもっています。昨年十一月十八日には、定時制生徒も本校創立七十周年の記念式典に参加し、軽音楽部が式典二

部で「ヨザクラ」を歌いました。

「持ちきれない 不安やイタさもあつたけど今は感じる 大事な喜怒哀楽を ええもん いっぱい もってるんやから まだまだ あきらめないで 歩き続けよう」

最後になりましたが、尚和会の皆様には平素から、定時制課程にご理解とご支援を賜りましてありがとうございます。また、卒業生の皆さん、是非、尚和会で大阪府立桜塚高等学校での温かみのある人間交流を思い出して集まっていたいただきますことを期待致しております。

学校だより

六十期生の卒業にあたって

第三学年主任 河村 光子

この数日冷え込みが厳しく雪がチラチラ舞ったりしています。六十期生は、センター試験も終わりのよい受験本番です。私大のセンター利用が増えた事もあり、今年のセンター受験者数は非常に多かったです。が、いよいよという時になって浮き足だったり、周囲に惑わされたりという生徒もあり、一年次からの地につけた学習こそが必要だと痛感しました。

入学以来、基本的な生活習慣を確立し学習面、部活動、クラス活動に自主自律の精神を培おうとして来ました。が、どこまで達成できたか反省することしきりです。

しかし生徒達はあくまでも元気に、前向きにくじけることなくやっています。七十周年記念誌にも書きましたように「温かい心を持ち、勉強もクラブも学校行事もがんばる」という桜塚高校生の伝統は受け継がれていると思います。

今、学校は特色作りを求められていますが、桜塚高校は普通科の良さを持った学校です。そこで六十期生と共に三年間過ごせたことを本当に嬉しく感じています。

六十一期生の修学旅行を終えて

二年学年主任 田中 淑

私たち六十一期では、昨年同様オーストラリアへの海外修学旅行を実施しました。同じことを二度やるだけでは面白くないので「現地の人々の生活に直に触れるミニ留学体験をしよう」をテーマに、ファームステイをメインに企画しました。ホテルでの宿泊ではなく班ごとに直接オーストラリアの人々の家に宿泊するのです。

直前になって関空からの毎日の出発便が突然なくなり、後発B団の四クラスは中部国際空港からの出発を余儀なくされるということも起こりましたが、十月一日夜いよいよA団が発発。八時間あまりのフライトの後、ケアンズに到着。荷物の整理もそこそこバスに乗って世界遺産に登録されているレインフォレスト見学に向かいました。そして、その日の夕方、それぞれのステイ先のファミリーと顔合わせ、全員が私たちの手を離れてファームに分散して行きました。何と言っても初めての体験なので、病気や事故が起こったらどうしよう、生徒の中には様々なアレルギーをもった者もいるし、食



事にもうまく適応できるだろうか、ホストファミリーとトラブルは起こらないだろうか、慣れない宿泊で精神面でも不安定になるものが出ないだろうかなど、ありとあらゆる事態を考え、そ

の対応に頭を悩ませました。

ところが、その心配も翌日、一遍に吹き飛んだのです。次々と戻ってくる生徒たちが、生き生きとした表情で口にするのは「メチャ楽しかった。よかった。もっと居たい」ばかり。ホストファミリーと記念撮影の後、別れを惜しんで涙ぐむ生徒もいたり、俄オーストラリア人になった生徒も少なからず居たのは笑いましたが、この時点で私たちの企画した修学旅行は半ば成功したと実感したのでした。普段はおとなしく活動的でもない生徒が信じられないくらい明るく活発な一面を見せてくれるのを目にしたことも大きな収穫でした。

その日はホテルに宿泊。次の日はグリーン島でのマリンスポーツとケアンズ市内研修。真っ青な海と空、白い砂浜。紫外線の強さは予想してた以上に強く、オーストラリアはさすがに違うと感じたのもこの時。生徒たちが開放感に浸った一日でした。最後の夜をホテルで過ごし、最終日はケアンズ市内で土産物など自由に買い物を楽しみ、ケアンズに別れを告げて帰路につきました。帰りの機内では一部の生徒のマンナーの悪さにひんしゆくを買ったのが少し残念でしたが、今回の旅行にはほぼ全員が満足してくれて、両団とも無事帰阪することができました。保護者の皆様には多大な費用の負担をおかけしましたが、それだけのものが得られたのではないのでしょうか。とにかく無事終了できたことは、企画準備した私たち担任団の大きな喜びです。生徒たちには、この旅行で得られた貴重な体験を今後の生活の中に生かしてほしいと願っています。

母校クラブだより

水泳部

顧問 河野 太

元氣あふれる六十期生が卒業し、六一・六十二期生が間近に迫った短い夏に向け全力で練習に取り組んでいます。二〇〇七年は桜塚水泳部にとって非常に大きな収穫があった年でありました。定期考査の一週間前及び定期考査中に一時間程度の軽い練習を行うことを許可されました。そのおかげで大切な短いシーズンに練習が途絶えることなく、たくさん選手の選手が厳しい練習に耐え確実に記録を伸ばしました。シーズン最終戦の新人大会においては、ここ近年実現できていなかったリレーでの決勝進出をも果たしました。選手層の薄い公立高校しかも普通科においては、四人の有力な泳者が揃うことは滅多になく、だからこそ貴重な体験なのです。この決勝進出はリレーメンバー四人の功績はもとより、厳しい練習でも全員で力を合わせ、自らに厳しく前向きに取り組む続ける体制を作ってきた部員全体の功績でもあります。またその基礎を作ってきた過去の水泳部、指導に訪れた卒業生などたくさんの方の要素が支えとしてあったことも忘れてはなりません。冬には大阪高体連主催の水泳練習会にも若干名ではあるものの参加もいたしました。そして本年、部員一人一人の自己記録への挑戦がすでに始まっています。水泳は個人競技であります。しかしながら、一人だけで練習するよりもチーム全体で力を合わせて取り組むほうが、個人の力も強

くなるといえるのです。個人競技でありながらもそういった一面を忘れることなく、自分が置かれている状況を認識し、ふさわしい行動がとれる人間に進化すべく日々精進する所存であります。そしてこの夏、我々水泳部は真摯に会心の一泳を追い求めるのです。

硬式テニス部

一年七組 西山 実佑

平日のテニス部の練習は、一年生は外周を二周走って、その後筋トレをして終わったら二年生と一緒に打ちまします。二年生は、最初にショートラリーをして、ロングラリーやクロスラリーをした後に、サーブ練習やダブルスの練習をしたりしています。平日は打てる時間が短いけれど、がんばって練習しています。休日の日は、平日よりもクラブをする時間が長いので、いつもやっている練習の他に、ボレーの練習や球出しや試合などを行っています。

テニスの大会では、女子は第一回戦ぐらいまで進みますが、それ以上あまり勝てないので、今は試合で勝ち進むことができるように練習しています。去年の秋の団体戦の大会では、予選の決勝まで進み、決勝で負けてしまったので悔しかったです。

もうすぐ二年生は引退なので、大会で少しでも良い成績が残せるように練習をがんばっています。これからみんな楽しんでクラブをしていきたいと思っています。

箏曲部

部長 後藤 知里

入学して間もないころ、本当は違う部活に入ろうとしていました。けれど

その部活の活動口が分からなくて、私は担任の先生に相談しました。その時に誘われたのが箏曲部です。部員数が少ないので、見学に来てほしいと言われた。顧問の先生の後をついてきました。部室である作法室は学校では初めて見る和室で、独特の雰囲気少し圧倒されたのを覚えています。

緊張しながら部室に入ると、量の匂いが香る中で先輩方の弾く琴の音が柔らかに響きました。少人数でも、琴の重なる音はとても綺麗だったのです。早速体験させてもらうことになり、「さくら」という曲のサビの部分を見せてもらいました。琴を実際に見るのは初めてで、もちろん触ったこともなかった私は琴を弾く爪選び、楽譜の読み方を一から教わりました。琴の楽譜は五線譜に音符ではなく、主に漢数字で表記された変わった楽譜でしたが、意外と簡単で分かりやすいものでした。何より自分で音を出せるということが楽しかったのです。私は迷わず入部することに決めました。

それから三年間、とても有意義な活動をさせてもらいました。週二日の活動は一曲一曲をきちんと完成させるには少し物足りませんでしたが、新しい経験は充実していました。新入生歓迎会での演奏、桜塚を見学に来た中学生の前での演奏は出来るだけ多くの人に琴への興味を持ってもらえるように演奏しました。

一度だけ、ボランティア活動にも参加しました。図書館で小学生を対象に琴の体験会を開きました。予想していたよりもずっと大勢の方が参加してくださり、目の前で演奏するのは緊張しましたが、温かい拍手がとても嬉しか

つたです。ほんの少し教えただけで、自分からすすいと弾けるようになった小学生がたくさんいたのも驚きました。皆が琴に対して興味をもち、楽しそうに弾いてくれたことが、一番嬉しかったことです。

毎年文化祭では体育館の舞台と中庭で演奏をします。舞台では短い時間でありますが、きちんとしたステージで弾く機会はこれぐらいなのでとてもやりがいがあります。中庭では日本庭園さながらの雰囲気の中で演奏でき、校舎の壁に反響して音色が響くので琴の魅力を充分に味わってもらえるのではないかと思います。二回目の文化祭からは一般の方にも琴を体験してもらえ、企画も立ち上げました。近寄り難いように見える琴ですが、入部したころの私と同じでまったく経験がなくともすぐに弾けるようになります。ご年配の方だけでなく、ボランティアの時のように小さい子でも興味をもってくれる人は多く、琴のもつ魅力を体験してもらえたと思います。

創立七十周年記念式典では、入部して以来の初めての大きな舞台となりました。残念ながら先輩方と都合が合わず、全員そろって演奏するのは本番当日のリハーサルが初めてとなり、それまでに一度も合わせることは出来なかった先輩もいらつしやったりと、不安や緊張も多々ありました。しかし先輩方の温かい励ましや頑張りを見て、自分達も頑張ろうと気合を入れ直しました。演奏するのは「六段の調」という琴でも有名な曲です。一曲約十分もある長い曲ではありましたが、全員一丸となって演奏させていただきました。桜塚の長い歴史へのお祝いとその一端

となれた感謝、そして高校生活最後の舞台として部員一同一生懸命取り組んだ行事でした。

長い長い三年という高校生活のなかで、最初に私を変えたきっかけがこの琴との、箏曲部との出会いでした。出来るだけ多くの人に琴に興味をもってもらいたいと活動してきましたが、それ以上に自分自身ももっとと琴の魅力に触れ、琴を好きになる三年間でした。これからは琴を好きになってくれる人が増え、多くの人に琴を身近に感じてほしいと思います。少しでも琴に興味を感じたら、気軽に体験しに来てください。

茶道部

二年 河野 伶香

茶道部は、昨年五十周年を迎えた伝統のある部です。お稽古の道具もそろって、季節に応じてお点前を変えていきます。週に一度、茶道の先生方がお稽古を見に来てくださいます。いつも熱心に指導してくださいます。文化祭では、浴衣を着て、中庭でお客さんにお茶を出します。夏には禅寺に行つて、三日間合宿を行います。お寺という落ち着いた環境の中でお点前をするので、早く上達します。お稽古ばかりではなく、当番で食事の準備をしたり、花火なども皆で楽しめます。他にも、交流茶会などで他校の茶道部の方達とお茶会を行ったり、京都の大徳寺で営まれる利休忌に参加するなど、積極的に活動しています。

そして茶道部の一番いいところは、部員の仲がとてよく、皆が楽しんで部活をしているところです。先輩も後輩も関係なく、来てくださる先生方と

もおしゃべりしたりするので、とても楽しいです。お稽古の時は集中して、「やるときはやる」というけじめがついているところもいいところです。お稽古の後にはお茶とお菓子をいただき、皆で楽しくおしゃべりをします。時々卒業した先輩方が来てくださったりして、茶道部は毎日とてもにぎやかです。これからは茶道部はお稽古に励みながら、楽しんで部活を続けていこうと思います。

演劇部

一年 木下 絵梨香

ここ数年演劇部は休部状態で、今春廃部になる予定でしたが、私達三人が入部して、続くことになりました。

先輩方がいないので、どうしたらよいのか分からずに戸惑うことも多々ありましたが、夏休みに、五年前の先輩達が来校し指導して下さい、とても心強く嬉しく思いました。又、夏休みには岡町図書館の絵本読み聞かせ活動や、大阪府全体の演劇部員対象の演劇講座に参加したことも良い体験となりました。

文化祭で発表した「スーホーの白い馬」の練習は、文化委員や他のクラブも兼ねたりしている三人の予定や息がなかなか合わなかったり、音響や背景等の準備の遅れがあったり、なかなか上手いきませんでした。台詞と音響をぴったりと合わせるのに苦労し、「もうヤメたい」と思ったりもしました。それでも頑張れたのは、一生懸命取り組む仲間同士の心のつながりがあったからです。

演劇部は再開されたばかりなので、部室がないので、活動日には、空き教

室で発声練習をしたり台本読みをしたりしています。三人では人数が少なく、できる劇の内容も限られてきます。私たちとしては、部員が増えてくれることを願いますが、その反面、うまく先頭に立っていけるかという不安もあります。失敗を恐れてはいてもできないので、みんなで協力して、積極的に活動に取り組み、外部とのつながりも大切にして、「演劇部」を作りあげていきたいと思っています。

写真部

顧問 鵜川 普

一九九一年から休部していた写真部（光画部）が活動を再開しています。まず、部員一人で同好会として再開し、部員数が増えないまま四年が過ぎ去り、部員七名になった昨年には部に昇格することができました。

活動再開当初から大阪府立高校芸術文化連盟（芸文連）主催のモデル撮影会やネイチャーフォト撮影会に参加し、モノクロフィルムの撮影テクニックを磨きました。同じく芸文連主催の写真技術講習会にも参加して暗室現象技術を学び、全紙の焼き付けまでこなすようになっていました。

現在の活動は、デジタルカメラの性能が良くなり値段も安くなり、また、フィルムが入手にくなくなったこともあり、デジタルカメラで撮影し、パソコンを用いて処理（トリミング・画質補正・加工）を行っています。

暗室の暗闇の中から映像が浮き上がってくる感動はなくなりましたが、撮影結果をすぐにチェックでき、撮り直しが直ちに行えるので、失敗を恐れなくともよくなった分、フィルム時代よ

り、作品づくりに取り組みやすくなったのではないのでしょうか。暗室跡を拝見しますと、先輩の方々は四×五やブローニーを扱って作品づくりに励んでおられたようですが、これからは扱うこともなくなってしまうと残念でなりません。

書道同好会

顧問 長谷川 伸子

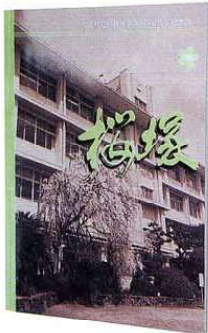
もう三十年も前の事です。その頃の桜塚高校の書道科には原田正憲先生がいっぱいいました。新人の何も分からない私にとつて、原田先生は眩しく、偉大でした。その後近藤先生、来住先生を経て、縁あって平成十八年度本校に着任しました。近年は多くの学校で書道部の活動が振わず、着任した時には本校も書道部が廃部になっていました。

本年度より生徒に声掛けをして、書道同好会を発足させました。現在会員は三年生二人、二年生二人、一年生三人です。運動部との兼部の生徒もいますが、各々自分のペースで熱心に取り組んでいます。

第一ブロック書道展、府下高校書道展などの他、国際高校生選抜書展・武庫川女子大学や四国大学主催の書道展など、意欲的にコンクールに挑戦しています。少人数で和やかな同好会ですが、地道な努力を重ねて書の愛好者の輪を広げてゆきたいと考えています。そして、三年の経過を経て「部」に昇格させたく、微力を尽くしてまいります。

尚和会の皆様、書道部に在籍されていた方、そうでない方、どうぞ母校文化祭などで書道同好会の展示をご覧になって下さい。そして、後輩達に良きアドバイスや刺激を与えて下さい。

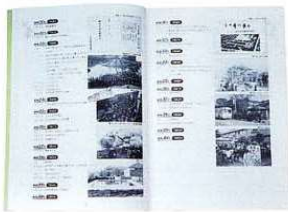
創立70周年記念誌紹介



（※作者ご本人、または作者をご存知の方は母校宛ご連絡下さいませよう、お願い申し上げます）

桜塚高生が育ちますように！！

（※作者ご本人、または作者をご存知の方は母校宛ご連絡下さいませよう、お願い申し上げます）

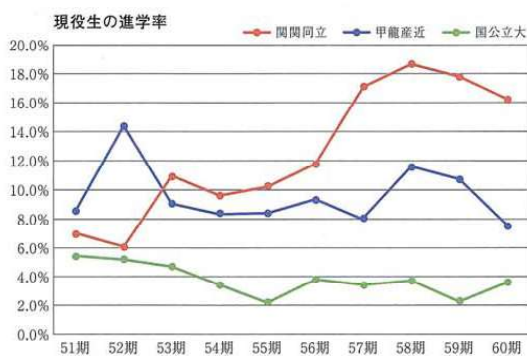


A4版106頁「現校長、歴代校長他の巻頭言、桜塚の歩み、全日制この10年、定時制この10年、企画（卒業生のメールによる投稿）、コラム、資料・記録」から構成されています。発行日2007年11月18日

※記念誌の103頁、年度別卒業生一覧表の中で、豊中高等学校の表に一部誤りがありました。

年度別卒業生一覧表 豊中高等学校 訂正分

卒業年度	期生	卒業生		
		男	女	計
昭和16年	1		235	235
17	2		231	231
18	3		245	245
19	4		204	204
20	5		293	293
21	6		261	261
22	7		272	272
23	8		224	224
小 計			1,965	1,965



東館一階の進路指導室には、資料や過去問を揃え、多くの三年生が利用し、

現役生の進路状況は、四年制大学へ六割が進学していますが、一方浪人が男子で増加し、現役生の進学率に反映しています。センター試験にも六割の生徒が受験しますが、国公立の実績によれば今後の課題が見えます。難関校は、もう少し早くから欲を出して狙ってほしい気もします。

平成二十一年一月にPTA主催協力という形で外部模試の校内実施が、二年生対象に土曜日に行われ、八〇％を超える生徒が受験しました。また四月には学習生活実態調査を実施し、現実を認識した上で、希望進路実現に向けた意欲喚起に努めています。

進路指導部長 望月 浩平

この二年間の進路状況について

隣の資料室も、受験勉強の自習室に活用されています。管理上の制約もありますが、年末年始もギリギリまで利用していました。エアコンがあれば夏場も重宝するでしょう。

三年生と話をしていると、桜塚高校をもっと良くしたいという話を聞きます。これは全ての卒業生の願いなのだと思いますが、応えるべき責任を感じるとともに、少しでも返していきたいと思っています。母校へ是非足を運んで下さい。

二〇〇七・二〇〇八年度入試合格者数 (浪人含む)

大学	2007	2008	2007	2008
国公立大学	207	208	主な私立大学	
大阪教育大学	2	1	関西大学	80
大阪外国語大学	1		関西学院大学	64
大阪府立大学	4	2	同志社大学	10
立命館大学	3	1	甲南大学	23
龍谷大学	1	2	京都産業大学	4
京都大学	1		近畿大学	55
和歌山大学	1		甲南女子大学	18
奈良教育大学	1		武庫川女子大学	34
山口大学	1		追手門学院大学	13
鳥取大学	1		佛教大学	7
大分大学	1		関西外国語大学	7
富山大学	1		大阪工業大学	6
秋田大学	1		大阪経済大学	16
高知大学	1			18

前号会報では、〇〇七年度分は掲載できませんでしたので、今年度と二年分掲載しました。

七十周年記念式典の思い出

高四十四期 数学科教諭 河野 太



この文章を書くことが、私の母校
桜塚での最後の仕事になるうとは当時
夢にも思いませんでした。平成十九年
十一月十八日、早朝から緊迫した空
気が我々実行委員を包んでいました。十
三時三十分、約二年間にわたって行わ
れた準備委員会・実行委員会によって
案が煮詰められてきた大阪府立桜塚高
等学校創立七十周年記念式典は、豊中
市民会館において厳かに執り行われま
した。第一部は本校英語科大西教諭の
司会による来賓の方々からのお祝いを
中心とする四十五分間の式典。第二部
は卒業生である本校理科桑田教諭と私
が司会を務めさせていただいた桜塚高
生全日制・定時制として卒業生にもご
参加いただいた記念行事。どちらとも
私にとっては特別な意味を持つすばら
しい思い出であります。当日が近づく
につれ、準備し忘れたことはなかった
か？ 伝え忘れたことはなかった
か？ などと考え出したらきりが
ないことばかりでした。市民会館との
直前の打ち合わせ、前日の搬入、一つ
一つをこなしていくにつれ緊張は高ま
り、それはやがて気合いへと変わって
いきました。当日の午前中に行われた
直前リハーサル、うまく司会原稿が読
めない：不安がよぎる。時間の調整は

できるだろうか？ 読み間違いしな
いだろうか？ しかし一度幕が上が
れば不安がついている暇などなく、前進
あるのみでした。第二部司会でこれ
です。第一部を司会された大西先生
のプレッシャーは想像しがたいもので
あったにちがひありません。

第二部の内容は桜塚高校の歴史・
全日制文化系クラブの発表の場・定時
制軽音楽部など…。中には全日制フォ
ークソング研究会の卒業生と現役生の
軽音楽部によるセッションもあり、桜
塚の卒業生にとっては非常に興味深い
ものであったのではないかと感じてお
ります。また、一期生の越水さん、高
田さんにも舞台上上がっていただき歴
史を語っていただいたこと、五期の永
田さんによる校歌作成の経緯のお話、
数々の大先輩の桜塚に対する思いの強
さに誠に感謝いたしております。まさ
に桜塚の校訓である明朗・敬虔・奉仕
が随所にあらわれた約百分間でありま
した。あたふたと時間が過ぎていった
ように感じた第二部ではありました
が、なんと予定時間を三十分以上もオ
ーバーしていたのでした。時間調整の
難しさも初めて知りました。しかし私
にとっては生涯二度とできない母校へ
の恩返しであり、嬉しい時間でありま
した。

こんなことを経験させてもらった
のも、西郷校長、太田事務部長、筒井
教頭、尚和会の方々：名前を出し切れ
ないほど大勢の方々の大きな力のおか
げであります。中でも桑田先生、教養
総務部長の吉田先生には記念誌や実施
要項をほとんど作っていただいたこと
と、頭が上がりません。この場をお借
りしてお礼申し上げます。大阪府立桜

塚高等学校創立七十周年記念事業、た
った一度のこのチャンスに参与させて
いただく機会を与えてくれたことに感
謝の念を抱かずにはいられません。そ
してこの桜塚が八十年、九十年、百年
：と末永く発展していくことを願うば
かりであります。

写真撮影：大島光昭（高15）



司会・桑田（右）、河野両教諭



受付風景



吹奏楽部（全日制在校生、卒業生）



箏曲部「六段の調」（全日制在校生、卒業生）



高女期時代を語る



軽音楽部「サクラ」（定時制在校生、卒業生）



ダンス部（全日制在校生）



音楽部（全日制在校生、卒業生）



フォークソング研究会（全日制在校生、卒業生）



軽音楽部（全日制在校生、卒業生）



西郷学校長



田中実行委員会委員長

尚 和 会 通 信

一、尚和会会報有料制について

今、お読みの尚和会会報は有料制です。年間千円（同封の払込用紙にてお振込み下さい）払込用紙紛失の方は郵便口座番号00930331860加入者名「尚和会」宛お願いします。会報発送者・会報千円及び協力納入者に限り翌年発行の会報を送付いたします。

二、尚和会会報の無料配布

その期が、卒業後五年経過ごとに、住所判明者を対象として全員に送付します。また、卒業後五年間は全員に送付します。

三、「同期会開催支援奨励助成金制度」

・助成金交付対象期

尚和会会員が同期会を計画、開催実施しようとするもので、その同期会が卒業五周年以降五周年単位で開催される期であること。なお、卒業後最初の同期会は右記の周年でなくても助成金を交付する。

・助成金の額

五〇、〇〇〇円とする。

・申請の手続き

開催する同期会の代表幹事が書面（同期会助成金交付申請書）にて、尚和会会長宛に同期会開催一ヶ月前迄に提出又は郵送する。（申請書用紙は会長宛請求のこと）

・助成金の交付

「同期会助成金交付申請書」受理後速やかに同期会開催迄に支払う。

なお、同期会に対する助成は同じ期が同じ周年時期に複数の場所で開催さ

れても、尚和会からの助成金交付は、その期に対して一回限りです。また、クラス単位での開催も対象外です。

四、在校生クラブ活動に報奨金制度

クラブ活動に顕著な成績を残したクラブに、活動費の一部を助成する制度です。助成対象は府下大会にて優勝またはそれに準ずるものとします。

在校生諸君の活発な活動を期待します。

平成20年度 評議員会及び理事会予定表

理事会

第1回	H20年5月10日(土)	尚和会議室
第2回	9月6日(土)	会費制 会場未定
第3回	11月8日(土)	尚和会議室
第4回	H21年1月18日(日)	新年理事会 会費制 会場未定
第5回	3月28日(土)	尚和会議室

評議員会

第1回	H20年9月6日(土)	会費制 会場未定
第2回	H21年1月18日(日)	新年評議員会 会費制 会場未定
第3回	H21年3月28日(土)	尚和会議室

各 期 連 絡 先

期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話
女1	越 水 ユ リ	06-6852-8755	高24	梅 田 純 子	06-6329-6309	高57	古 川 啓 太	06-6333-3572	定37	渡 部 二 郎	
女2	北 川 富美子	0798-74-3024	高25	小 合 孝 子	06-6855-3604	高58	渡 辺 晋 次	078-411-2808	定38	中 村 保	
女3	菅 野 万喜恵	06-6852-0020	高26	松 田 俊 一	06-6841-1049	高59	長 尾 優 佑	06-6336-5937	定39	森 本 真裕美	06-6849-7859
女4	永 井 徳 子	06-6942-1968	高27	戸 田 緑	06-6875-7718	高60	豊 島 将 太	06-6336-5300	定41	奥 田 康 弘	06-6388-7339
女5	加 藤 恵 美	06-6872-6248	高28	乾 憲 隆	0797-74-4331	定1	吉 本 喜代子	072-722-2075	定42	前 川 良 司	072-722-5896
女6	青 木 操 子	06-6843-2552	高29	山 澤 健 二	06-6399-7677	定3	永 井 博 純	072-759-2971	定43	山 田 辰 典	06-6333-1785
女7	黒 田 長 子	06-6854-5432	高30	木 村 慶 子	06-6853-9213	定6	中 川 豊	06-6349-8965	定44	大 塚 俊 二	072-762-7873
女8	中 村 陽 子	06-6844-1570	高31	佐 藤 稚加子	0797-87-8357	定7	岸 本 弘	072-734-1237	定45	青 木 宏	06-6332-5370
高1	安 達 良 子	072-721-3901	高32	池 田 紀 和	06-6332-3324	定8	田 邊 昭 夫	06-6843-0952	定46	岡 田 智 寛	06-6333-5996
高2	北 野 敦 子	0797-88-2676	高34	中 谷 和 宏	06-6864-3181	定9	中 本 賢 一	06-6854-2078	定48	野 口 光 弘	
高3	谷 田 探 成	06-6314-0550	高35	川 嶋 道 代	072-729-6099	定11	永 井 敏 輝	06-6852-0333	定49	大 鳥 正 登	072-761-1036
高4	中 右 吉 信	06-6855-5372	高36	安 藤 昌 博	06-6832-7930	定12	笹 部 修 造	06-6852-0475	定50	福 永 敦 哉	06-6862-7542
高5	宮 口 一 郎	06-6852-4859	高37	高 崎 建 治	06-6623-6801	定13	中 岸 澄 江	06-6843-5737	定51	徳 留 三 香	06-6866-6994
高6	北 まち子	06-6865-3131	高39	須 崎 康 広	072-752-6441	定14	杉 本 土 生	072-728-1497	定52	本 郷 美由紀	06-6841-0860
高7	関 高 明	0797-88-5603	高40	堂 前 直 子	06-6336-7265	定16	森 島 作 蔵	06-6857-6219	定53	山 下 武 徳	06-6857-3239
高8	森 田 司 朗	06-6872-3329	高41	坂 口 大 介	06-6303-4831	定17	前 田 政 治	06-6855-8451	定54	山 本 雄 助	072-724-2347
高9	安 浦 果	072-737-0068	高42	谷 尾 紀 江	048-946-3601	定18	中 島 健 二	072-722-8153	定55	高 橋 秀 彰	06-6852-4438
高10	唐 渡 吉 則	072-752-4548	高43	横 尾 さち子	06-6854-0026	定19	飯 田 悦 弘	06-6855-3440	定56	越 智 康 裕	06-6868-2275
高11	吉 田 和 久	06-6857-0352	高44	河 野 太	06-6476-1102	定21	堀 健 次	06-6878-5694	定57	石 村 真 実	080-3113-0635
高12	斎 藤 嘉 明	072-738-4647	高45	米 本 牧 子		定22	西 田 惣 一		定58	上 山 良 太	072-751-1035
高13	細 川 和 彦	06-6849-6879	高46	榎 本 誉 士	06-6841-8531	定23	豊 隆 司		修1	矢 野 和 美	
高14	佐 藤 勝 哉	06-6849-0663	高47	三 谷 真 一	06-6332-3499	定24	日紫喜 富 美		修2	能 勢 優 紀	06-6841-2919
高15	大 島 光 昭	06-6841-8135	高48	二階堂 亮	06-6352-1468	定25	大 町 裕 次	06-6862-7083	修3	島 山 貴 徳	072-728-1150
高16	中 務 公 子	06-6858-4509	高49	初 村 康 友	06-6393-9870	定27	稲 井 幸 雄	072-728-0955	修4	竹 田 大 河	06-6841-4820
高17	福 本 育 馬	06-6333-6636	高50	佐々木 智 也	072-751-3235	定28	真 下 保	06-6385-6190	修5	三 島 祐 貴	072-722-7482
高18	北 川 悟 司	06-6843-1336	高51	伊 藤 健一郎	072-724-1872	定29	寒 川 悟		修6	野 口 雄 樹	06-6843-7595
高19	志 賀 順 子	06-6852-0968	高52	橋 本 修 平	06-6849-7439	定30	大涯池 みゆき		修7	田 中 一	06-6833-6671
高20	郡 守 男	079-565-2627	高53	宮 崎 浩	072-761-9583	定31	木 原 純	072-730-6756	修8	足 立 亘	06-6855-3538
高21	山 本 登志恵	06-6924-3544	高54	森 田 浩 史	06-6866-0667	定32	市 村 孝 浩				
高22	杉 山 茂	06-6841-4119	高55	高 寄 崇	06-6852-1288	定34	清 水 美 佳	072-761-3323			
高23	後 藤 保 二	06-6373-7380	高56	亀 井 み え	06-6393-1017	定35	武 藤 直 美	06-6843-5357			

尚和会 平成19年度決算報告・20年度予算

[収支決算]

(自:平成19年2月1日 至:平成20年3月31日)

(単位:円)

(注)70周年記念事業開催の関係で、前年度の決算締切日を変更した為、19年度の始まりは19年2月1日からとなっている。

科 目	予 算	決 算	差引過不足	備 考	20年度予算
収入の部					
入 会 金	1,412,000	1,408,000	▲4,000	19年3月卒352名(全日 309名、定時 43名) @4,000円	1,284,000
会 報 代	2,500,000	2,483,000	▲17,000	2,483名	2,000,000
尚和会協力金	3,500,000	4,781,100	1,281,100	1,620件	2,500,000
広 告 取 入	600,000	600,000	0	16件	60,000
利 息 取 入	50,000	33,119	▲16,881		60,000
雑 収 入	600,000	909,000	309,000	桜塚高校70周年記念誌代 (@1,500×申込者606名)	10,000
計	8,662,000	10,214,219	1,552,219		5,914,000
支出の部					
事 務 費	100,000	63,563	36,437	事務用品、会員名簿管理費	100,000
備品・雑品代	50,000	289,774	▲239,774	コピー機1台、ゴミ袋、紙コップ	50,000
通信・交通費	400,000	135,637	264,363	ハガキ(印刷、宛名シール含む)等	350,000
会 合 費	370,000	313,972	56,028	理事会・評議員会及び各委員会合費	400,000
会 報 発 行 費	5,500,000	5,218,111	281,889	26,800部(30頁)、発送代23,413部、振込用紙他	2,500,000
総 会 費	1,500,000	687,143	812,857	尚和会70周年記念総会・懇親会(参加者361名)	700,000
東京支部援助金	150,000	150,000	0		150,000
同期会開催助成金	500,000	200,000	300,000	高4、高9、高19、定8期	500,000
慶 弔 費	100,000	35,000	65,000	学校行事祝儀他	100,000
卒業生記念品代	150,000	120,000	30,000	卒業証書入れ(未払計上)	150,000
現役クラブ報奨金	50,000	33,970	16,030	定時制全国大会出場(陸上6人・卓球1人)	50,000
高校70周年協力金	3,600,000	3,525,128	74,872	桜塚高校70周年記念事業協力金、式典当日写真代	—
雑 支 出	300,000	729,538	▲429,538	桜塚高校70周年記念誌発送料約46万円、〒振込料約25万円他	300,000
予 備 費	500,000	75,186	424,814	尚和会ホームページ年間維持管理費用(未払計上)	500,000
計	13,270,000	11,577,022	1,692,978		5,850,000
1. 差引当期収支	▲4,608,000	▲1,362,803	3,245,197		64,000
2. 前期繰越金	3,701,881	3,701,881			1,339,078
3. (1+2) 合 計	▲906,119	2,339,078			1,403,078
4. 尚和会積立金等繰入		▲1,000,000		尚和会積立金に積立てる。	
5. 尚和会積立金等取崩		0			
6. 次 期 繰 越 金		1,339,078			

※印1～4については、別途補足説明参照。

[貸借対照表] (平成20年3月31日現在) (単位:円)

借 方	貸 方
現 金	18,039
郵便振替口座	681,788
普 通 預 金	1,031,131
定 期 預 金	17,528,306
定 額 貯 金	9,272,000
未 収 入 金	25,000
合 計	28,556,264
	未 払 費 用
	預 り 金
	尚 和 会 積 立 金
	尚和会事業積立金
	次 期 繰 越 金
	合 計

以上、報告いたします。

監査の結果、誤りの無いことを報告します。

平成20年3月31日

平成20年3月31日

財務担当副会長(高13期) 細川 和彦 ㊞ 会計監査(高3期) 中村千穂子 ㊞
 会 計(定13期) 中岸 澄江 ㊞ 会計監査(高17期) 上村 学 ㊞
 会 計(高16期) 中務 公子 ㊞

平成19年度決算報告の補足説明

※1. [総会費]

内 容	金 額
収入	
尚和会総会・懇親会参加費349人分(記念誌代込み、@10,000×346、@5,000×3)	3,475,000
キャンセル半額負担金13人分(@5,000×12、@2,500×1)	62,500
総会祝儀(2件)	60,000
総会集合写真代(@1,000×申込者155人)(未収入金 25,000含む)	155,000
計	3,752,500
支出	
ヒルトンホテル同窓会プラン(@9,000×360人分)	3,240,000
当日の音響・照明・電化・看板 他	93,450
出演料、花束3つ	715,000
名札・吊看板等事前経費	223,733
5月20日総会・懇親会の写真撮影、焼増代	167,460
計	4,439,643
差 引 支 払	※1. 687,143

※2. [高校70周年協力金]

桜塚高校70周年事業は、学校を中心にPTA・桜塚会・尚和会・振興会で実行委員会を設け、約2年間にわたり準備し会合を重ね、無事成功裡に終了しました。
 そして尚和会からは、350万円(含む、正門しだけ桜治療代6.9万円)を協力いたしました。
 この資金は、桜塚高校70周年記念誌、同記念品(校章入りクリスタル文鎮)、更に学校への寄贈品(体育館舞台用の幕、優勝カップ等の展示ケース、楽器・彫像「若者」修復、正門前ボールライト、広接室エアコン、運動場テント2張り)の一部として充当されました。

※3. ※4. 桜塚高校70周年記念誌関係

上記※2.[高校70周年協力金]の内「桜塚高校70周年記念誌」に対し、尚和会は1,500冊分を負担しております(発行総数2,800冊)。

尚和会はこの内1,000冊を受取り、尚和会総会参加者と記念誌申込者(有料)に配布しました。

※3.[雑収入]909,000円 ※4.[雑支出]のうち463,444円(914件の記念誌送料)

尚和会平成20・21年度役員紹介



副会長
(行事担当)
高15期
上田 幸子



副会長
(総務担当)
高11期
吉田 和久



副会長
定8期
田邊 昭夫



会長
高15期
大島 光昭



会計
高29期
旭 直子



会計
高16期
中務 公子



副会長
(財務担当)
高29期
山澤 健二



副会長
(広報担当)
高28期
乾 憲隆



東京支部長
高11期
斎藤 良和



会計監査
高20期
郡 守男



会計監査
定13期
中岸 澄江

以上の方々が新役員として平成20年3月29日開催の第5回理事会、第3回評議員会において選任承認されました。

個人情報保護対策について

尚和会では、会の運営に必要な皆様の個人情報をお預かりしています。お預かりする個人情報は個人情報の保護に関する日本の法令その他の規範を厳守して以下の目的の範囲でのみ利用いたしますので、何卒、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■利用の目的について

- ①尚和会会報の発行・発送
- ②各役員会開催案内等の告知文書の発送
- ③尚和会が会の運営を遂行するにあたり、必要とする年会費徴収

- ④その他、会の活性化を図るため、必要と思われる作業等合法的な目的のために活用する場合

■ご提供いただいた個人情報については、尚和会が責任を持って管理いたします。

■尚和会は、ご提供いただいた個人情報を正確に処理いたします。

■尚和会では、信頼に足ると判断した外部の企業に、個人情報のデータ処理ならびに発送作業を委託することがあります。

■ご提供頂いた内容は、本人の承諾なしに学校・同窓会関係者以外の第三者に開示することはありません。

ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものとします。

- ・法令の規定による場合
- ・ご本人ならびに公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合。

■個人情報は、原則として本人にかぎり、開示・訂正・削除を求めることができます。

お問合せ先

〒561-0881 豊中市中桜塚4-1-1

大阪府立桜塚高等学校内 尚和会事務局

TEL06-6853-2244/FAX06-6853-0825

創立70周年記念事業の 寄贈・記念品一覧

■実行委員会取扱分

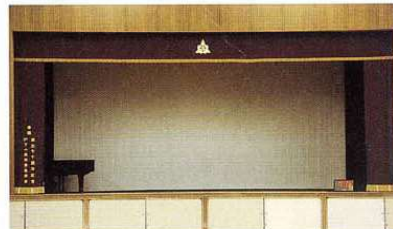
1. 体育館舞台用 一文字幕 袖幕 前幕
2. カップ・賞状用展示ケース（玄関右側に設置）
3. 全・定楽器支援（全・チューバ、全・クラリネット、定・消音ドラム）
4. 彫塑像（若者）修復・台座設置（15期生有志による貴重な像を修復し、下足室前に設置）
5. 正門前照明用ポールライト設置
6. 応接室用エアコン
7. テント 2張り（体育大会等に使用のため）

■各団体取扱分

1	先行実施	平成15年度実施	視聴覚教室 エアコン設置	PTA・尚和会
2	先行実施	平成18・19年度実施	学校正門前 枝垂れ桜補修	尚和会
3	協賛実施	平成19年度	製氷機	桜援会



カップ・賞状用展示ケース



体育館舞台幕



楽器（チューバ）



枝垂れ桜



視聴覚教室エアコン

高校九期斎藤忠芳氏叙勲受章

広報委員会

平成十九年春の叙勲で、斎藤忠芳氏が黄綬褒章を五月六日に経済産業省から受章され、その後皇居にて天皇陛下に拝謁されました。誠にめでたうございます。心よりお慶び申し上げます。氏はボントン（株）代表取締役社長で、協同組合関西ファッション連合の副理事長の要職に就かれています。

※お詫びと訂正

昨年の会報Vol.55にて、一色貞輝氏（前豊中市長）の叙勲受章の記事で、高校六期を高校五期として掲載いたしました。訂正してお詫びいたします。

新聞投稿より

先輩へ

高三十期 井塚 弥生
(旧姓 白川)

N子先輩、お疲れさまでした。先日、市民会館であった母校の創立七十周年記念式典。私たち軽音楽部OBが無事出演できたこと、うれしく思っています。

先輩から、久しぶりに歌いましょう、とメールが来た時、私は軽い同窓会のノリで参加を決めました。だけど、あの練習のオニと言われた男の大先輩が、やるからには恥ずか

しくない演奏をすると言った時、こうなったら本気で、と思いました。

曲名は「翼をください」。こんな純真な歌、今の私たちに歌えるかな、と思ったりもしました。それでも、毎回五時間以上に及ぶ練習にも、皆、抜群の出席率でした。重い楽器とアンプを抱えて二時間かけて来る仲間もいましたね。練習を重ねるたびに昔の坎がもどってきて、上達も実感しました。それなのに、私、本番の舞台袖であがってしまいました。思っていた以上に大きな舞台だったから。

その時こう思ったんです。ここに立っているのは私たちだけではな。若くして逝ってしまった仲間、病と闘っている後輩、それぞれの事情で来られなかった仲間の代表として、歌うんだと。そう思うと落ち着いて歌うことができましたよ。

バンドとコーラス二十八人、現役高校生八人による「翼をください」は、迫力のある演奏で、校長先生も感激されたと聞きました。打ち上げで、先輩のマスカラがにじんでいたのを、私は見逃しませんでしたよ。

毎日新聞 平成十九年十二月七日

朝刊「女の気持ち」掲載

仲間のタスキ 未来につなぐ

高二十九期 落語家 山澤 健二

昨年十二月、高校の同窓生で駅

伝に初挑戦しました。四年前の同窓会を機に、仲間のウェブサイトを立ち上げ、交流が続いています。

「みんなで駅伝に出たら、盛り上がるやろな」。マラソン好きの再三の誘惑に、「今更、何を」と言ってきた四十九歳たち。ところが今回、サポーターも含めて、男性六人、女性四人が手を挙げました。

出場した大会は十六キロを四人でタスキをつなぎます。埼玉県に住む二人も駆けつけ、二チームを編成しました。ほとんどが駅伝未経験者。直前までメールや電話で励まし合い、ほかの同窓生も応援してくれました。

当日は好天。スタート地点には、年に二度咲く「十月桜」がチラホラ。二度咲くとは、大阪府立桜塚高校出身にして、五十代を前にもう一花咲かせたい私たちのようです。

寒い中、仲間が応援に来てくれたお陰で、好タイムでのゴール。みんな感激して涙ぐみ、卒業式を思い出しました。

幸せの黄色いタスキを心一つにつないだ仲間たち。それぞれの道を歩みながら、見えないタスキをずっとつないで来たように感じます。高校時代に逝った友も、青空から応援してくれたはず。見えないタスキは、未来につなぎます。

朝日新聞 平成二十年一月六日

朝刊「声」掲載

同期会報告

高女一期生会 七十周年記念同期会

十九年度幹部一同

平成十九年七月十一日(水)

「なんで？なんでやの？自分のしたことばっかりに愕然としてたり、ニュース報道に唖然としてたり『遊行期』の私たちです。お元氣そうにしてはるかしたら？満八十二歳を過ぎて生かされている不思議をあつめて創立七十周年のお祝いの一期生会に集まりましょう！」

という案内状に、七十年前十二歳だった少女が四十二名参集しました。誰を見ても、今生きていることへの感謝の思いが、一人一人の胸を熱くしていました。明朝・敬慶・奉仕の校訓あ



つての一期生私たちです。今回の写真類・名簿の一切は九州から来られた松村さんのご好意によるものです。ありがたうございました。喜びの一つとしてあることを考えていたのですが、笑って笑っているうちにそのことを忘れてしまっていたことをお許し下さい。来年もきつと元氣そうに見せて、皆様と手を取りあつて、お会いできます様に、一日一日を大切に生きて過ごして下さる様に、切に切に祈りおります。きつとよ！

豊中高女四期生会

幹事 岡部佳子 古銭孝子 杉原笑子

高橋田鶴子 辻 清子

風かおる五月十五日に、私共高女四期会を、グランヴィア大阪にて開催致しました。

当日は絶好のお天気めぐまれましてはつといたしました。出席者は四十名でした。東京や四国からも出席下さいました。

記念撮影のあとごやかに、おいしい料理をいただきながら、みなそれぞれなつかしい思い出話に花を咲かせ、最後には全員で歌を歌いました。

そのあと喫茶室にて、お茶をのみ、なごりをおしみつつ来年度の再会を約し散会いたしました。

四期生会とは昭和二十八年に発足しまして約五十五回続いて参りましたが、加齢によるおとろえには勝てず平成二十年満八十歳をもって、この会を卒業する事になりました。

来年度最後の集まりとなりますので、大勢の皆様お誘い合わせの上ご参加下さいますよう、お待ちしております。



のちがはぐくまれますことを心より念じて居ります。

平成十九年八月二十二日

豊中高女六期生 第二十五回同期会報告

世話人一同

日時：平成十九年十一月二十九日

場所：みのお山荘 風の杜

出席者：四十七名

晩秋の箕面は満山見事な紅葉で、どちらを眺めても息を呑む美しさでした。最初に亡き友に黙祷を奉げ、その後、健康を祝う杯を上げ徐々に楽しい宴が始まりました。お招きした、井上まさ先生も御到着になりスピーチを伺って、雰囲気は一層盛り上がったことでした。

井上先生は昨年も増してお健やかににお見受け致しました。先生から出席者全員に、干支に因んだ、青磁のと



豊中高女七期生・ 高校一期会

幹事一同

「喜寿記念同期会」を左記により開催いたしました。

日時：平成十九年三月六日

場所：ホテル阪急インターナショナル・月華の間

参加者：六十九名

春まだ浅く、梅の蕾もようやくほころび始めた三月六日に「喜寿を祝う同期会」を六十九名の同窓生のご参席のもとに賑々しく開催いたしました。

顧みますと私達の同期会は、平成十六年の夏に宝塚ホテルで開催してから三年振りの会合でございました。

開宴に先立ち記念写真の撮影後「月華の間」に集い、亡くなられた恩師や級友を偲び全員で黙祷を捧げました。

この会合に先立ち、事前に同期会の今後の運営について皆さんからアンケートを頂いておりましたが、今回の「喜



寿を祝う会」をもって同期会を終わりにすることをご了承いただきました。

奇しくも母校桜塚高校が本年七十周年を迎え、記念総会をヒルトン大阪で開催されることを尚和会理事よりご案内がありました。その他諸々の報告事項が終わりまして乾杯をし、その後は賑やかに旧交を温めながら近況を語り合い、楽しい一時を共に過ごしました。健康で皆さんにお逢いできましたことを喜びあいながら、最後に高女時代の校歌を合唱しお開きに致しました。

遠路からお集まり下さいました大勢の皆様、幹事一同から感謝しながら、お名残はつきませんでしたがお別れいたしました。

最後になりましたが、母校七十周年をお祝い申し上げますとともに、更

なる発展をご祈念申し上げ、ご報告と致します。

(古川貞子・記)

高校四期生 卒業五十五周年高四期会

中右 古信

「過ぎし日の想いあらたに花の宴」
「余生にもまだある未来風光る」
この二つの句は今回の四期会の案内文の冒頭を飾った世話人のひとり北野定子さんの作である。

母校創立五十、六十周年記念総会



の年に同時開催もしてきた四期会なので、もう次はないとの思いで七十周年の当日、同ホテル四階金閣の間で開催した。関東からの参加者十名、総勢八十名が集まった。

いつも段取りを一手に引き受けて

いる松田祝三君の案内文に今回初めて女性からクレームがついた。それは「今回のキーワードは、最終章」という言葉、男性からするとうなずけるのだが、どうも女性には七十歳台は通過点、まだまだこれからという意識が強いことがよく分かった。

いつも不思議と、あの昭和二十三年春の突然の男女共学時の刺激的な出会い、想い出話は尽きない。

次回は、「喜寿」を祝おうと約束をしている。なお、昭和シンクル会の音楽を楽しむ催しは毎年開戦と終戦の月に宝塚ホテルで催されている。参加希望者は連絡ください。

高校九期 卒業五十周年及び 古稀を祝う会報告

幹事一同

「11・11」？年々物忘れが進む年代になり、誰もが覚えやすい日にやろうと、平成十九年十一月十一日、地元ホテル・アイポリで、卒業五十周年と古稀を祝う会を一年繰り上げ、同時開催を決定。

そして半年後、当日は尚和会・田中渡会長に出席を頂き、東京をはじめ遠方組も含め六十一名の元気な顔、顔が勢揃い。桜塚高校で出会い、五十年間に渡って深めてきた友情をさらに深めるため、今回はビンゴゲームなどはやめ、たっぷりお喋りの時間を設けました。

いよいよ定刻の一時、記念撮影も終わり、藤田君の名司会ぶりで物故者への黙祷、恒例の挨拶、乾杯と進む中、ホテルの心づくしの料理を舌つづみしながら、青春時代の思い出、近況報告等に大きな話し声や笑い声が湧き上が



り時間のたつのも忘れ、アツという間に楽しいひとときが過ぎ去りました。

最後に全員で校歌を合唱し再会を誓い合いながらも、名残りがつかず二次会を呼びかけたところ三十名近くが集まり、ホテルの中庭で更なる旧交を温めることが出来ました。

さあ！七十歳！ガンバリ！

〈追記〉次期新代表幹事に宇多良勝君、会計に多田満智子さんが選出されました。

高校十九期 卒業四十周年同窓会

海老 一夫

来年で還暦を迎える十九期生（一九六七年昭和四十二年卒業）の四十周年同窓会が十月十四日大阪市内のヒルトンホテルで開催。水田紀久、柳沢千吉、相沢昂、永広富延先生達四人を迎



え、男性三十二名女性三十九名が出席した。前回から五年が過ぎ、昨年急逝した奥田敏輝会長ら、これまで亡くなった同窓生に黙祷。水田先生の音頭で乾杯したあと、出席されなかった先生方の近況が報告された。前回まで立食だったのも今回は全員座席についての会食だった。お楽しみ抽選会も外れク



定八期 卒業五十周年記念同期会 「久しぶりついで」の開催

岡野純之助

梅の花香る三月二日の日曜日、豊中駅前ホテルアイボリーに於いて、私達の同期会「久しぶりついで」を開催いたしました。

時はあたかも卒業式の季節、私達も卒業五十周年を迎え、いつもより多くの仲間が集いました。卒業した九十六名の内(他界した人十名)(連絡の

取れない人二十八名)そしてあいにくの欠席が二十八名で当日元気な姿で三十名が参加しました。遠くは宮崎県、小豆島、淡路島からの参加者もあり賑やかな開会となりました。

クラス担任をして下さった三名の先生の内二人は既にお亡くなりになっておられ、五十年の歳月の永かったことを思い知らされました。他界された方々への黙祷、校歌の合唱、乾杯と進むにつれ参加者の気持も表情もタイムスリップし、懐かしさと友情に包まれた空間をつくりだしていききました。

近況報告では百歳まで生きようと宣言する人もあり、お互い健康第一とかなずきあいをしました。

趣味も先生、名人クラスの人もあり一人一人の年輪を重ねた話に耳を傾けたりしているうちに予定の三時間はあつと云う間に過ぎ、今秋に旅行にゆく計画も提案され実行に移すことになりました。

今回の幹事を選出し、平成二十二年五月十六日(日)に再び集うことを決め散会しました。

同期会開催予告

高女一期生会

日時：平成二十年十月十九日(日)
十二時開催

場所：ホテルアイボリー
幹事：山本英子・島津澄子

豊中高女卒業六十五周年記念二期会

日時：平成二十年七月八日(火)
十一時～十四時

場所：ホテルグランヴィア大阪
会費：五、〇〇〇円

※詳細は後日ご案内します。

昭和十三年に木の香も新しい建築中の校舎に入學しました。えんじ色の屋根に緑色の壁。屋上には校訓の象徴である明朗、敬虔、奉仕の三つの鐘が、カランコンと鳴り響き、昭和の激動の時代を五年間奏し、それなりに青春を謳歌し、昭和十八年に卒業しました。それから六十五年もの年を重ねましたが、久しぶりにお目にかかり度く、ご参加をお待ちしています。

豊中高女七期生卒業六十周年 有志同期会のご案内

日時：平成二十年七月七日(月)

受付：午前十一時三十分

場所：ホテルアイボリー(阪急豊中駅北)

会費：三千円

高女七期生は戦中、戦後女学生時代を送り波乱万丈の体験世代です。今年六十周年を迎え感無量でございます。高女七期会は昨年の(喜寿の会)で終焉しましたので、今回は有志で右の様に集まり旧交を温めたく、ご案内申し上げます。

世話人 藤井妙子 黒田長子
森田玲子 出口珠子
安達良子

同期会開催予告

◎ご賛同の方は六月末迄に葉書で下記へ連絡迄。

〒五六二一〇四三
箕面市桜井一十一三 安達良子

高校十五期卒業四十五周年 記念同期会のご案内

日時：平成二十年十月十八日(土)
午後三時半開宴

会場：ヒルトン大阪(JR大阪駅前)

会費：一〇、〇〇〇円

その他・本会報に同封の葉書にて出欠のご返事を下さい。

お問い合わせ先

会長 大畠光昭
電話・FAX
〇六八八四一八一三三五
携帯〇九〇一三〇五三三八〇三八

第八回尚和会東京支部総会開催

日時：二〇〇八年十一月九日(日)

十二時～十四時

場所：品川プリンスホテル
(JR品川駅高輪口すぐ)
二十四F宴会場(軽井沢)

アトラクション
藤沢俊樹(チェロ)
谷合千文(ピアノ)

会費：一〇、〇〇〇円

尚和会東京支部長 齊藤良和

尚和会会員数(単位：人)

	高女 1期～ 8期	併中 1期～ 2期	高 1期～ 60期	定 1期～ 58期	定通修 1期～ 8期	旧職員	現職員	現職員 (定時制)	合計
会員数	2,061	229	26,931	4,304	97	790	80	58	34,550
物故者	404	18	736	99	0	174	0	0	1,431
住所不明者	272	44	7,369	2,312	19	188	0	0	10,204
住所判明者	1,385	167	18,826	1,893	78	428	80	58	22,915
判明率	86.8%	80.8%	72.6%	46.3%	80.4%	76.2%	100.0%	100.0%	70.5%

教職員人事異動

全日制

平成19年度

退職

和田 寛仁

木保 恒雄

池本 進

黒田美智子

桑原 義昭

大阪教育大学附属高等学校
校池田校舎へ

事務部長 小久保勝司

府立北野高等学校へ

政経 藤森 正義

府立高槻北高等学校へ

数学 岸本 和也

府立山田高等学校へ

生物 西谷信一郎

府立箕面東高等学校へ

●転入

副校長 関 省子

府立千里高等学校教頭より

事務部長 太田 哲雄

池田土木事務所参事より

首席 佐藤 容子

府立桜塚高校全日制

国語 小寺五三子

府立北淀高等学校より

世界史 竹山 森夫

府立校岡樟風高等学校より

地理 谷口 亮

府立北千里高等学校より

数学 荒竹 清美

初任者

化学 瀬戸 伸夫

府立刀根山高等学校より

体育 足立 隆

府立少路高等学校より

数学 尾藤 直樹

期限付講師

養護 宇高美津子

養護助教諭

平成20年度

退職

渡邊 光一

府立桜塚高等学校へ
(非常勤)

転出

寺口 尊教

奈良県立西の京高等学校へ

数学 尾藤 直樹

府立千里青雲高等学校へ

国語 川本美樹子

府立池田北高等学校へ

化学 河野 太

府立池田北高等学校へ

保健体育 浦田登志子

府立池田北高等学校へ

●転入

森本 雅弘

府立春日丘高等学校へ

国語 松村 尚子

府立島飼高等学校より

国語 湯原 春美 (常勤講師)

数学 今村 武廣 府立松塚高等学校より

数学 館田 邦明 府立茨木東高等学校より

化学 山上 直樹 府立島本高等学校より

生物 菅井 和由 府立豊島高等学校より

体育 神崎 俊和 府立箕面支援学校より

養護 石原 塔子 (養護助教諭)

定時制 平成19年度 旧職 関 節子 御招待ありがとうございます。御盛會祈つておめでとございます。御盛會祈つてます。

旧職 納 祐子 卒業生の皆様の御健康をお祈り申し上げます。

旧職 山本 俊雄 関係される方々の御苦労に感謝しております。

教諭 遠藤 俊六 (茨木工科高等学校定時制 社会科)

教諭 大崎佳津子 (箕面高等学校全日制 教頭)

●転入 期限付講師 山野 和久

期限付講師 片桐 亮太

●退職 平成20年度 国語 金井 史

数学 西川 裕

体育 宮崎 敏雄

英語 岡田 敏夫

●転出 教頭 杉本 英世

体育 有川 正 大阪教育大学附属池田高等学校へ

●転入 課長補佐 森田 牧人 守口支援学校事務長へ

教頭 安尾 勝雅 地域教育振興課より

国語 寺東百合子 淀川工業高校(定)より

体育 佐々木敏行 茨木東高校より

英語 浅野 敬嗣 藤井寺工業高校(定)より

数学(再) 西川 裕 松塚高校(定)より

課長補佐 泉玉 雅之 布施高校(定)より

お便りから

平成十九年四月から平成二十年一月までにお送り頂いたものの中から掲載しています。



旧職 関 節子

旧職 納 祐子

卒業生の皆様の御健康をお祈り申し上げます。

旧職 山本 俊雄

関係される方々の御苦労に感謝しております。

旧職 水田 紀久

診察券をよく出し間違えます。

高女一期 安達 タミ

いつか「私は貴女より六つ年上なだけよ」と驚かせて下さった先生と、今も賀状を差し上げている先生の御消息を記念会報で拝見して感無量でした。

高女二期 武藤千代子

創立七十周年特集号嬉しく拝見いたしました。この年まで元気で生かされていることに感謝しております。

高女一期 林 秀美

創立七十周年おめでとございます。御盛會を御祈り申し上げます。私は去年から入退院をくりかえしております。皆様によりしく。

高女二期 村上てふ子

七十周年、我が年老いし事当然ながら矢張り長い道のりですね。若い方達のお力に感謝。

高女二期 君塚 節子

思いがけない長寿に只々驚き、戦いで夢も希望も奪われ、何も成し得なかった、我身の力不足、此が人生と思ひ知らされています。

高女三期 浜田 綾子

七十周年おめでとございます。八十歳の今、昔の女学生時代を思い出とし、今のこれからの松塚高校のますますの隆盛を祈り夢みております。

高女三期 俣野 加代

校訓の明朗、敬虔、奉仕を心に持ち、過した五年間でした。卒業アルバムを見返して、なつかしさが一ぱいです。七十周年おめでと、そして有難うございます。

高女三期 河方満智子

会報ありがとうございます。送球部メンバーの写真に三期生のお顔が並んで大変なつかしく拝見。小河敏子先生(北村)のお便りに感激。一年の理科(植物)での先生のお姿が目前に、さっそくお便りしました。

高女四期 遠藤 静栄

創立七十周年記念特集号ありがとうございます。永井徳子さんの思い出には感動いたしました。古川さんとの活躍はいつも羨ましく眺めておりました。

高女四期 佐藤有紀子

高齢、遠距離の為、今回にて終わりとさせていただきます。長期間お世話いただきありがとうございます。

高女四期 早川 早苗

私は四期生。創立七十周年とは「六十六年」も入学してより経過している事におどろきました。母校の益々の発展を祈ります。

高女五期 和氣 恭子

ハンドボール部のタテのつながり(高女期)がますます強くなり嬉しい事です。

高女五期 渡辺 康子

創立七十周年おめでとございます。この輝かしい歴史の中に五期生として在学させて頂けたこと嬉しく存じます。

高女五期 谷口 敏子

創立七十周年おめでと存じます。私達には戦争の記憶が大きいですが、楽しい少女時代もありました。

高女五期 林 道子

平成十九年は創立七十周年になるのお知らせで、大変に嬉しく感謝しております。松塚高校の歴史を拝見し母校の発展を祈っています。

高女六期 吉田紀美子

創立七十周年おめでと存じます。遅ればせながら送らせていただきます。

高女六期 塚本美喜子

七十周年お祝い申し上げます。さやかです。送金遅れて御免なさい。

高女七期 今治 禮子

いつもお世話になり有難うございます。会報が届く度に青春の女学生生活と、戦争がオーバーラップしますが思い出して若返らせて頂いています。

高女七期 富田 恭子

七十周年おめでとございます。新入学の時は、七期生ですと言われた今、感無量です。母校の益々の発展をお祈り申し上げます。

高女八期 柴田佐喜子

創立七十周年おめでとございます。特集号なつかしく拝見させて頂きました。送球部のメンバーに同期生も写っていて当時がい出され涙が出ました。役員の皆様の御苦労に感謝しました。

高一期 安達 良子

創立七十周年おめでと御座います。高女七期(高一期含)は三月六日に「喜寿の会」を持ちました。母校の御健在を祈念しています。

高二期 大竹多摩子

創立七十周年おめでとございます。学校だより「進路状況報告」は一番の関心事です。今号はなかったようですが次号からは是非お願いします。

高二期 伊藤 登子

楽しい会報ありがとうございます。高女四年の次に高校二年になりました。

高二期 岡本 秀子

七十周年感無量です。ご盛會を祈ります。

高二期 増山 和子

創立七十周年にかかわる式典、総会、記念誌と大変な作業と推察します。

高二期 篠原 貞子

松塚の学生生活に警察予備隊が保安隊となり、今は自衛隊。戦いをする軍隊の姿、とても危くを感じています。

高二期 寺門 良子

昭和二十年高女九期生として入学した私達は昭和二十二年創立十周年、その後昭和三十三年、昭和四十二年…と考えると全創立(記念)周年に出席出来そうです。

高四期 松田 祝三

前田(憲男)氏とは、彼の活動初期の頃、東京でお会いして以来だけに楽しみにしています。

高四期 近藤 栄子

何時もお世話になり感謝しております。

高四期 林 正宏

毎年一回、尚和会会報を受け取る度に、在学時代の事が、寸時に懐かしく蘇ります。

高五期 奴 公夫

昨年八月に転倒ケガを負い、体が不自由です。大変残念ですが七十周年総会には出られません。総会の大成功を祈ります。

高五期 中島 光夫

総会には参加出来ませんが、記念誌の「七十年のあゆみ」etcにて青春の思い出を楽しみにしています。

高五期 秋田 良子

五月二十一日の総会の日には私共の結婚記念日にあたります。(四十七年目)出席は出来ませんでした。豊中と聞いたり通ったりしますとなつかしき一杯です。速くに越してからはよけいにそう思います。

高六期 野口 史子

七十周年おめでとうございます。出席出来なくて、とても残念に思っています。お世話下さる方も大変でしょうがますますの御発展を祈っています。

高六期 久津間昭江

創立七十周年おめでとうございませう。会報ありがたく拝受しました。一病息災に、平穩に過ごしております。

高七期 村重 典子

七十周年おめでとうございませう。役員の皆様のご努力に感謝申し上げます。

高七期 井上 真一

七十周年おめでとうございませう。同窓生の集いの会「尚和会」も、益々の発展と活性化を祈念し、唯一の支部「東京支部」も栄えあれ!!

高八期 大上 昌子

母校の七十周年と自分の生れ年昭和十三年が同じと驚いております。私も十年先八十周年を迎えれますよう余生を大切にしたいと思っております。

高八期 大内 雅子

尚和会々報いつもなつかしく拝見致し、又お世話の皆様に感謝しております。この度七十歳を記念して出版致しました私の刺しゅうの本の写真を掲載して頂き有難うございました。

高九期 橋本千代子

制服が私の時とまだ一緒だとなつかしく思い出します。

高九期 上野 由美

役員の皆さま有難うございます。素晴らしい会報ですね。総会楽しみにしています。

高九期 小原 瑛子

二〇〇七年会報を楽しく読みました。お世話下さります方々に感謝します。ありがとうございます。

高十期 端田 正子

創立七十周年おめでとうございませう。御盛會お祈り申し上げます。

高十一期 村田 昌三

サラリーマン生活四十年、定年後は東京港区麻布十番でライオンズマンシヨンの管理員として勤務しています。皆様の御健康を祈ります。

高十一期 森 幸子

創立七十周年おめでとうございませう。鶴崎熊太先生、お元気で嬉しい思一杯です。

高十二期 森本 英之

幹事役の皆様には御苦労様です。若かりし日若かりし人は幸いなり。残念今更には欠礼します。

高十三期 竹田 佳代

会報を送っていただき、有難うございました。七十周年記念のご盛會を祈念しております。

高十三期 小田切茂彦

卒業四十五年、初めて出席の同期会、四十五年前に戻った一日でした。尚和会の委員さん創立七十周年お世話かけますがよろしく願います。

高十四期 植田 佳枝

なつかしいお便りをいつもありがとうございます。八年前から始めた家庭菜園もやと板に付いてきて、これから忙しい季節です。

高十四期 飯島 洋子

七十周年会報過ぎ去りし年月を重ね懐しく読みました。恩師のお名前を見つけたスリッパし健在をうれしく思いました。

高十五期 宮嶋 勝

元気な内に一回でも多くの同窓会に出席したいと思う年頃になりました。

高十五期 北野 洋子

広報楽しく読ませて頂きました。広報委員長様ご苦労様でした。

高十五期 加集 允子

趣味(ヨガ・コース・俳句・ちぎり絵・旅その他)に生きて毎日充実しています。

高十五期 山崎 恵子

創立七十周年記念の会報楽しく読ませていただきました。役員の皆様いつもご苦労様でございます。

高十五期 福士 凱彦

「七十周年記念特集号」楽しく読ませて戴きました。内容豊富で最高です。『七十周年記念誌』が楽しみです。お世話して下さい方々に感謝!

高十六期 林 紀子

七十周年おめでとうございませう。益々発展されますようお祈りしております。

高十七期 柴田 俊子

七十周年誠にありがとうございます。益々の御発展お祈り致します。

高十七期 阿部 博隆

上村様水らく御無沙汰しています。今年還暦迎え今年会合があれば出席させて頂きます。母の十三回忌で親戚が三十名近く集まりにぎやかでした。

高十八期 後上千鶴子

七十周年おめでとうございませう。三期上の姉(上田幸子)とともに、いつも桜塚をなつかしく思っています。

高十八期 長島 順子

七十周年おめでとうございませう。各方面で活躍の先輩後輩を誇らしく思っております。

高十九期 鈴木 恵子

会報ありがたくございませう。孫にも恵まれ、落ち着いた生活をしております。

ます。総会は欠席させていただきますが、一万一千円振込みます。尚和会のご発展をお祈りします。

高十九期 杉 明子

創立七十周年おめでとうございませう。いろいろとお世話いただきまして、ありがとうございます。

高二十期 大月真理子

今回は出席できませんが、皆様のおたよりをみて励みになりました。愛すべき母校桜塚です。お世話になります。

高二十期 羽倉 恵子

会報懐しく拝読致しました。各々幹事様のご苦労を思い感謝致します。

高二十期 仲井由喜子

五月十六日(二十三日まで北欧へ旅行の為総会には欠席致します。皆様に宜しくお伝え下さいませ。

高二十一期 富永 操

役員の皆様、いつも有難度うございます。総会参加出来ないのが残念です。今後共よろしく!

高二十一期 小松 友代

創立七十周年おめでとうございませう。なつかしい恩師のお名前を目にして励まされました。

高二十四期 松野喜代子

今後の生き方など、語り合います。よう。また同窓会にて。

高二十五期 原横 寿子

創立七十周年おめでとうございませう。更なる御発展を心よりお祈り申し上げます。

高二十五期 宮本 恵子

尚和会会報(創立七十周年記念特集号)御送付頂いてありがとうございます。

高二十五期 中島とも子

七十周年おめでとうございませう。桜の季節には懐かし思い出しています。

高二十六期 金ヶ江裕之

御盛會を御祈り致します。

高二十九期 吉田 薫

七十周年おめでとうございませう。倉田先生のお元氣そうなメッセージに感動しました。お会いしたいです。

高二十九期 小林 佳代

久しぶりに会報を拝見いたしました。特集号だけに、読みごたえのある内容でした。ありがとうございます。

高二十九期 旭 直子

七十周年おめでとうございませう。五月二十日の総会パーティーが盛會となりますよう……。

高三十一期 高橋 美紀

仕事で年に数回、各地に行っているのに何故か大阪に縁がありません。また訪れてみたいです。

高三十二期 山村 宏記

七十周年おめでとうございませう。現在長野に単身赴任しており、七十周年記念式典には出席できませんが、盛大に盛り上がり下さい。

高三十二期 伊藤 真弓

七十周年おめでとうございませう。今年も三十二期同窓会を楽しみにしています。

高三十五期 桑田 誠

母校に赴任して三年になります。昨年は創立七十周年の記念誌作成や、記念式典に携わることが出来、思い出の年となりました。今年は自分の学んだ同じ教室で、同じ三年二組の担任となります。

高三十五期 角南 篤郎

尚和会役員の皆様方、大変お世話になっております。

高三十五期 森本 智子

剣道部でお世話になった井須先生はじめ、なつかしい先生方のお言葉を拝見しました。皆様お元氣のご様子で嬉しいですね。

高三十六期 村上佳津子
総会、つい手伝わせていただきました。しかし、いつも思うのですが、私等の年代には会費が高いです。うちは子供いせんが、今、子育てまっ盛りの連中はヒマありませんが、自分の同窓会のためにそんなに支出できません。

高三十七期 佐田 裕子

東京に来て五年。幼稚園のママ友達、桜塚の卒業生だと知ってびっくり。とてもさわやかな女性です。桜塚たんぽぽの綿毛は、どこに行っても素敵な花を咲かせていますよ。

高三十七期 松下 和子

七十周年おめでとうございます。その太い幹につぼみとしてでも入らせて頂けてうれしいです。

高四十四期 加藤 崇

おめでとうございます。私も桜の端くれとして頑張ります。

高四十五期 向井 恵

〇七年三月二十五日に第一子の女の子理桜(りお)を出産しました。

定六期 塩田 廣一

お陰さまで元気に私も七十歳(古稀)を迎えました。皆さまのご健康を祈っております。

定六期 友野 信子

大阪府立桜塚高等学校創立七十周年記念おめでとうございます。

定七期 佐々木好一

桜塚高校七十周年おめでとうございます。私も人生七十歳。本当にふてぶてしく生きている自分が悲しくて不思議で仕方ありません。今更ながら思うこと尚和会!バンザイ!!編集のお世話本当に大変だろうなあといつも関心させられます。感謝感謝。

山岳部OB会 百回記念を視野に入れて...

高三期 高谷 善雄

山岳部OB会は一九六七(昭和四十二)年十月の第一回会合以来、長つづきして、去年四月第八十八回を「米寿の会」と称して、昼は山歩き、夕刻親睦会を開きました。そして二年後の二〇一〇(平成二十二年)春には、百回のメモリアル集会成为ります。それまで現メンバー二十人(部の存廃によりOBメンバーは高三期から高十九期とまり)の息災を祈る次第です(現在まで物故者五人)。

その百回メモリアルイベントとは別に、次のようなことを企画しています。故後藤敬直先生が七十七歳の時、北アルプス・白馬岳山系の春スキーツアーを完走されました。高三期の高谷がガイド同行したのですが、冬期山小屋のエイジレコードになっています。二年後、七十七歳になる高谷が同コースに挑戦することになっています。

今年の四月は、第九十二回の集まりとして、まだ新緑の浅い六甲の山歩き、明るい谷間で「鍋」を囲みます(この記事は三月起稿)。今流行の熱年登山を横目に、メンバーの何人かは四季の自然から毎回新しい発見を楽しみに山野へ出かけています。

写真は、第八十九回の集まり(二〇〇七年十一月三日)で、六甲ゴロゴロ岳へ登った時のものです。「旧職員一人、高三期一人、高十一期三人、高十七期一人(東京から参加)、高十八期四人、高十九期一人(夜、高十七期一人参加)」



平成十九年度 新年理事会・評議員会

行事委員 渋谷伊三雄

尚和会理事会と評議員合同の新年会が、平成二十年一月二十日(日)に中津の「ラマダホテル大阪」にて五十八名の出席にて、開催されました。

田中会長の挨拶にて始まりましたが、その冒頭に、今年の選抜高校野球にて、桜塚高校が、「二十一世紀枠」に大阪代表として推薦されていたという話をされ、場内はドットとわきました。結果的には近畿地区代表としては選ばれず、残念な出場でとはならなかったようです。しかし、甲子園球場にて校歌が流れる日も、そう遠くはない気がするのには私だけではないと思います。



す。その後、西郷学校長より、母校の現状等をご説明頂き、又、各委員会からの報告があり、会食となりました。ホテル自慢の料理を堪能しながら、新年会恒例のビンゴゲームを楽しみました。今年には行事委員会で用意した賞品の他に、田中会長より「会長賞」毎年多数の寄贈を頂いている「北之坊賞」それにホテルからも賞品を提供頂き、参加者全員が当たるといふ、異例のビンゴゲームとなりました。

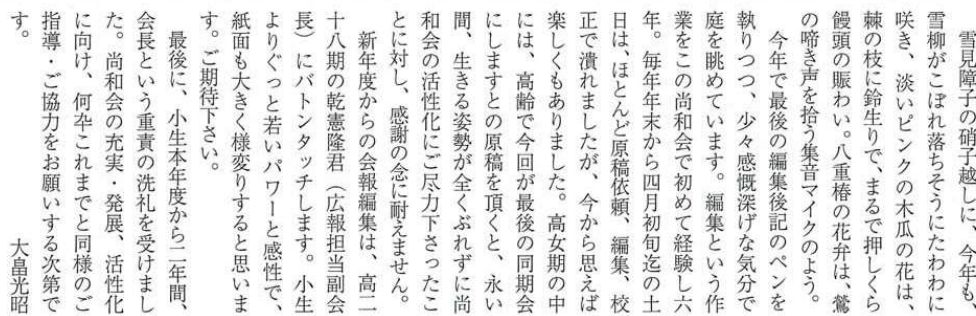
平成十九年物故者芳名

(平成十九年1月1日~12月31日まで)

旧職員

高嶋登紀子(佐野)	H 19	10	15
高女1期			
根本 君子(田中)	H 19	12	
山岡 静江(成瀬)	H 19	3	2
滝沢 淑子(山部)	H 19	5	17
高女2期			
高田 豊子(村上)	H 19	5	
高女4期			
島村 幸恵	H 19	5	6
山田 民恵(川井)	H 19	12	
高3期			
佐々木和子(森本)	H 19	7	25
高4期			
長沢 淑子(福井)	H 19		
前田 廣子(松元)	H 19	5	4
安藤 照正	H 19	5	5
高5期			
片山 昭	H 19	2	8
庄司 尚美(山本)	H 19	2	22
高6期			
大喜多弘末	H 19	5	25
高7期			
澤原 光雅	H 19	2	26
岩井富士子(西田)	H 19	2	10
高8期			
中山 恵弼	H 19	7	25
高13期			
新居 興次	H 19	11	11
福盛 修智	H 19	12	12
山田 豊彦	H 18	12	12
高15期			
西村 従一	H 19	11	28
高18期			
三浦 敏伸	H 19	2	11
高29期			
戸井 一水	H 19		
高30期			
大平 智子(奥井)	H 19	4	6
定5期			
橋本 昌員	H 19		
兼重 博美	H 19	7	8

●萬定十八期	片本 礼子	仁木るり子	
二千元	小牧 光子	前田福太郎	
●萬定十九期	内藤 博行		村上 隆
千円			
●萬定二十二期	龍田 礼子		
四千元			
●萬定二十三期	一萬二千円 森 隆司		
千円	峯 百合子		
●萬定二十七期	辻井 憲一		
二千元			
●萬定四十四期	玉岡 浩三		
千円	苗村 晃		
五千元			
●萬定四十七期	富田 和子		
二千元			
●萬定四十九期	山口 節子		
三千円			
三千五百円	新原照正雄		
●萬定五十一期	小柳のぶ江		
千円			
●萬定五十四期	石津 拓也		
千円			
●萬定五十五期	作本由喜恵		
千円			
三千円	深江谷美子	古田 絹枝	
●萬定五十六期	柳澤 享		
千円	岩本しづ子		
●萬定五十七期	生田 清子		
二千元	井上 宗	馬場 達也	
三千五百円			
●萬修一期	馬場 勇気		
千四百円			



編集後記

母校創立七十周年 尚和会記念総会・懇親会

行事担当副会長 上田 幸子

平成十九年度は母校創立七十周年にあたり、従来と異なり、記念すべき総会であるので、おおよそ一年前から準備を開始しました。総会実行委員会を前年の五月に立ち上げ七回の会議を経て平成十九年五月二十日（日）、ホテル大阪にて開催されました。ホテルの大きな桜の園いっばいに来賓や多くの恩師の先生方・会員、総勢三百六十名を超える参加で華やかに和気あいあいのなかにも整然と行われました。

総会の第一部は田邊副会長の司会により、まず恩師や同窓生の故人の冥福を祈って黙祷を捧げました。田中会長長の七十周年記念総会を開催するまでの経過や思いなどを述べられた挨拶のあと西郷校長先生より桜塚高校の伝統と母校に対する同窓生の心情を讀えられた心温まるお祝辞をいただいたあと、来賓紹介、東京支部長斉藤良和さんからの祝電が披露され、各委員会からの報告ならびに十八年度の決算報告・監査報告、十九年度の予算案が報告され第一部は終了しました。

第二部は二十九期生笑福亭仁勇さんの司会で、五期生・前田憲男さん、四十期生・幸田さと子さんの二人のアーティストをお迎えして演奏会が開催されました。まず、華やかな真っ白なドレスでヴァイオリニストの幸田さんが登場され、懐かしい曲、「赤いスイートピー」の軽やかな音色で演奏会はスタートしました。「タイスの瞑想曲」

や「ツゴイネルワイゼン」などのクラシックだけでなく美空ひばりの「愛燦燦」など、力強くまた優雅な素晴らしいヴァイオリン演奏に会場はうっとりとして聞かれました。引き続きジャズ界の重鎮、前田憲男さんが登場されました。「酒とバラの日々」で演奏が始まり、軽やかで大人の魅力が溢れるピアノ演奏の世界に私たちを引き込んでくださいました。前田さんの今回初めて同窓会で演奏することになったいきさつなどユーモアたっぷりのトークに会場は笑いに包まれ、現在大阪芸術大学で教授をなさり、ジャズピアノでは第一人者の前田さんの親しみやすいお人柄に共感を覚えたのは私だけではないかたでしょう。『TIME GOES BY』や『枯葉』、『LOVE STORY』など親しみのあるジャズ音楽を次々と演奏され、最後に幸田さんと夢のようなコラボレーション「私の心はヴァイオリン」で演奏会の幕が閉じました。

第三部はいよいよ懇親会。シッティングオンテーブルでお料理が運ばれ、高女一期越水ユリさんの乾杯の音頭で和やかに始まりました。宴が進むにつれて各期やグループで写真を撮ったり恩師の先生方のスピーチで会話はたけなわ、三時間があっという間に過ぎて、最後に全員で校歌を高らかに合唱し記念撮影で幕は閉じました。

七十周年総会には多くの皆様方のご協力で無事盛会に終わる心より感謝申

し上げます。今年度平成二十年総会
は五月十八日（日）ホテルアイボリー
で行います。最近とても人気の落語を
聴いていただきたく十九期生の桂
春之輔さん、二十九期生の笑福亭仁勇
さんをお迎えします。若い期の方もぜ
ひ気軽にお越しください。多数のご参
加をお待ちしています。

写真撮影 小田通史（高29）



来賓挨拶
西郷正人校長

懇親会司会
山澤健二（高29）

会長挨拶
田中 渡（高11）

乾杯音頭
越水ユリ（高女1）

幸田さと子（高40）

前田憲男（高5）

コラボ演奏

校歌斉唱

恩師と共に（高15）
中西昭次先生、高橋桂四郎先生